



一般
社団法人 電池工業会
BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2024年6月号

第56回定時総会を開催

2024年5月31日（金）、一般社団法人電池工業会は、第56回定時総会を機械振興会館にて開催した。定款により村尾修会長（株式会社 GS ユアサ）が議長となり、開会に先立ち、競争法コンプライアンス・ルールを遵守するよう要請がなされ、その後、第1号議題から第5号議題までが審議され、提出された議題はすべて承認可決された。また、報告事項についても確認された。



村尾会長



清水専務理事

1. 第56回定時総会

(1) 第1号議題（報告事項）2023年度事業報告の件

議長の指示に従い、専務理事より、2023年度事業報告の説明がなされ、議長が議場に諮ったところ、第1号議題は確認された。

(2) 第2号議題（第1号議案）2023年度決算報告の件

議長の指示に従い、専務理事より、2023年度決算報告書（案）の説明がなされた。監事より、監査の結果、経理上および運営上特段問題なかった旨報告された。議長は第2号議題（第1号議案）について議場に諮ったところ異議無く、原案通り承認可決された。

(3) 第3号議題（報告事項）蓄電池産業 政策関連の件 （蓄電池の安定供給の確保）の件

議長の指示に従い、専務理事より蓄電池産業 政策関連の件（蓄電池の安定供給の確保）の件についての報告を行った。

(4) 第4号議題（報告事項）関西蓄電池人材育成等 コンソーシアムの件

議長の指示に従い、専務理事より、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムの件についての報告を行った。

(5) 第5号議題（報告事項）製造業分野 特定技術制度 新団体 設立の件

議長の指示に従い、専務理事より、製造業分野 特定技能制度 新団体 設立の件についての報告を行った。

以上、第1号、第3号、第4号、第5号に関する報告に対し、議長より議場に諮ったところ、報告事項は確認された。

上記をもって第56回定時総会を終了した。

第111回 二次電池第2部会を開催

2024年6月7日（金）、浅利部会長（パナソニックエナジー株式会社）を議長に、第111回二次電池第2部会を機械振興会館での対面会議で開催した。開会に際して、事務局よりBAJ競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、浅利部会長ならびに清水専務理事の挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より、これまでの活動報告を行った。





浅利委員長



清水専務理事

1. 部会長挨拶

今年度の部会運営は初回対面会議、以降オンラインを併用したハイブリッド会議を予定しています。極力対面で活発な議論ができるようご協力をお願いします。

世界情勢が大きく変化している中で、電池業界への参入企業が増え、中国から SC21A に関連する様々な規格も提案されておりますので、その対応についてもご協力をお願いします。

2. 専務理事挨拶

5月15日、理事会、5月31日、定時総会が開催され、2023年度最終決算が承認されました。今後は2024年度の活動を確実に推進して頂くことになります。各委員会での取組の成果がでるよう、対応をお願いします。

また、5月20日、NITEの大型蓄電池実験棟(MIDDLEチャンバー)の開所式が開催されました。日本の蓄電池にとって、自動車用、定置用の特性評価の定量化が有効手段になるので、是非、NITEと連携して活用頂きたいと思っております。

3. 各委員会報告

◆技術委員会

各分科会報告

<リチウム二次分科会>

・IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全) CDに対するコメントを審議し、日本 PT に提出。

・モバイルバッテリーに対する JIS C 62133-2 過充電保護機能の試験方法について、組電池の入口に電圧印加することで合意された。

<LIB 安全性技術 WG>

・IEC62660-3(自動車用 LIB 安全)における DISC 試験は他国からの意見を募集して改訂審議することが合意された。パウチセルを用いた DISC 試験条件検討中。

<据置 LIB 分科会>

・JIS C 8715-2(産業用リチウム二次電池安全性)改正は3月に公示、7月の電気用品調査委員会にエントリー。

・IEC62620(産業用 Li 二次性能) 2nd Ed は、CD コメント審議の PT 会議で、SOH の定義を求められ日本案提出。

・IEC63056 2nd Ed(蓄電システム用 Li 二次安全)は、CD 回付が遅れているが、9月 PT 会議、11月 CDV の予定。

<非駆動用車載 LIB 分科会>

・IEC63118 Ed1(非駆動用車載 LIB 性能)は、2024年2月21日 IS 発行。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

・IEC 61951-1(ポータブル機器用途 Ni-Cd 電池性能)/IEC 61951-2(ポータブル機器用途 NiMH 電池性能) Ed5 に対応しており、日本から4件の提案をまとめ、PT 会議で審議予定。

・IEC 62133-1(ポータブル機器用途 Ni 系二次電池安全)Ed2 に対するオプザーベーション案が審議され、日本 NC の見解を説明。2025年6月 IS 発行予定。

<産業用ニッケル水素分科会>

・IEC 63115-1(産業用 Ni-MH 性能)の過充電未想定設計電池について検討中。PL が CD 案を作成して審議予定。

・IEC63115-2 Ed2(産業用 Ni-MH 安全)へ JIS 独自

規格の展開を推進中。バッテリー筐体の難燃性仕様の表記ルールのみの規定を提案、PL が CD 案を作成して審議予定。

<PSE WG>

・Li-ion 蓄電池に係る技術基準別表第十二への一本化対応として、2024 年 12 月に移行措置が終了することに問題ないことを確認し、BAJ HP に注意喚起を再掲載する。

・海外事業者が日本の消費者に直接製品を販売している場合、責任を負うべき製造・輸入事業者が存在せず規制されないという課題があり、日本の責任者を選任させ責任の所在を明らかにし、違反品の出品削除要請、届出事業者情報の公表制度、違反者の公表制度を盛り込んだ改正案が国会に提案された。今後、継続監視を実施。

<蓄電システム WG>

・国土交通省から提案されている公共建築工事標準仕様書等の改定一次案に対する意見募集に対応。

<リユース規格分科会>

・IEC63338 Ed1(二次電池用リユース一般ガイダンス規格)は 8 月 IS 発行予定。

・JARI で審議中の IEC63330(リパーパス製品規格)は 6 月 IS 発行予定。

・TC120 の PT62933-2-201TR(リユース考慮の BESS 試験法)は他の規格に侵害しないよう確認実施。

<CFP 規格分科会>

・IEC63369-1 Ed1(産業用 LIB の CFP 計算規則)の CDV は、PT 会議にて再度議論が必要と付記し反対票を投じ、同時にコメント 381 件を提出。結果は賛成多数で CDV は承認され、2024 年 12 月に FDIS 移行予定。CDV コメントは、PT 会議で 10 月末まで審議される。

「技術委員会対応の活動報告」

① BASC 主催 ISO/TC333 国内委員会対応

・WG3(炭酸 Li 分析法)が 2024 年 2 月 15 日開催。SC21A に影響を及ぼす内容はなし。

・炭酸リチウムと正極活物質の CFP 規格を検討する Adhoc Group 新設が決定された。

② SBA S 0405「二次電池用語」改訂版について

・二次電池用語標準化委員会から修正依頼があり対応した。提案内容は採用され、7 月に冊子発行予定。

「技術委員会における審議事項」

① IEC SC21A のエキスパート登録見直しが承認された。

② 中国 NC 提案「ESS 用ナトリウムイオン電池の安全/性能規格」について

・参加は同意、規格審議は据置 LIB 分科会で実施する。

③ BAJ HP(リチウムイオン二次電池の再利用について)の改定検討開始について

・リユース規格分科会から情報更新の提案があり同意された。

◆国際電池規格委員会

・4 月 2 日、3 日に ANSI C18 会議開催。リチウム、ニッケル系とも対応する国際規格との整合、また、誤飲の Reese's law の対応を行った。

・4 月 22 日～26 日、SC21A 国際会議が開催された。ポイントは以下 3 項目。

① 日本主導の IEC61960-4(Li コイン二次性能)、IEC63338(リユース安全)は、年内に IS 発行となる見込み

② IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全)、IEC63369-1(産業用 LIB の CFP 計算規則) など合計 1000 件以上の意見審議を行う労力がかかる改訂作業が増加。

③ Sodium Ion Battery の性能・安全規格が中国から提案された。各国からあまり反応がないので、開発が承認されるかは不透明。

・中国の工業情報化部(MIIT)が 23 年 12 月、リチウムイオン電池総合標準化体系の構築ガイドラインを公開して意見募集を実施。材料からリサイクルまで 6 分野、542 件の規格が公表された。主な取組は、国際標準化協力の深化、標準化人材の強化、中国標準の世界化。標準化対象が広く、細分化されており、国際提案が集中すると、現状のエキスパートでの適正化、無害化は困難な状況。

◆国際電池輸送委員会

1.2 ICAO DGP/29 会議のフォローアップ

・危険物の分類の根拠となる情報を要請に応じて国当局に提出することが合意され、FAA 関係者を通じて IATA の担当者に伝えた。

1.3 SAE G27 会議

・起点セルの温度は 200℃まで昇温し 1 時間保持という試験条件が、200℃では熱暴走しないセルもあることから、375℃まで昇温する条件に変更するようテストチームから提案された。BAJ からは、温度を上げ過ぎることによる副作用、金属リチウム電池への拡張時にリチウムの融点を超えるなど不都合があるため、反対意見を述べた。基準書には変更した条件が反映されたが、投票時に BAJ の立場を示す。

1.4 リチウム電池ハザードベース区分 UN インフォーマル WG

・国連危険物輸送専門家小委員会に提案する公式文書の内容を Web 会議で確認。ハザードをわかりやすく区分した新たな UN 番号がアサインされ、いくつかの条件も変更された。今後、国連会議のフィードバックを受け、8 月に予定されている会議に出席する予定。

1.5 第 64 回国連危険物輸送専門家小委員会(6 月 24 日～7 月 3 日開催)

・国内対応部会で BAJ 見解を審議。電池業界に影響がある提案は以下の通り。

自己宣言で実施している国連輸送試験を第 3 者機関に変更するもので、開発スピード、費用にインパクトがあり反対。無接触充電の短絡試験免除の提案に対して、セルの短絡試験実施を要望。

設計変更した電池の再試験の明確化に対して、正規の修理品の試験結果有効性については支持。

1.6 『リチウム金属電池およびリチウムイオン電池の輸送に関する手引書』第 12 版

・2025 年 1 月に発行できるよう、各社の担当分を調整して着手した。

2. 小型全固体 LIB 輸送 WG

・輸送規制緩和に向け、国連の日本窓口提案文書を提出。前回の国連会議に提出した非公式文書をブラッシュアップした内容に変更。国連会議の結果を受け、今後、航空輸送への対応も検討する。

◆普及促進委員会

1. 普及促進委員会

(1) 2023 年度の政府への提言活動について

・蓄電池産業戦略を受け、経済産業省に 4 項目の提言を行い、コメントを頂いた。

蓄電池製造工場等における設備改造に対する補助については、既存の支援は新規・改造を区別していないので、定置用の能増 300MWh 以上の条件で活用できるはず。

蓄電池メーカーのカーボンニュートラル実現は、総論は理解するが、定量的な提案を頂きたい。

資源リサイクル推進は、電池メーカーとしての課題明確化を求められた。

関税不利益の解消より、日本製が優先採用される補助要件を提言して欲しい。

(2) 2024 年度の政府への提言活動について

・補正予算(2024 年 7 月)、年度予算(最終提言書：2025 年 3 月)の 2 度、経産省へ提言予定。補正予算に向けては経産省のコメントに対するブラッシュアップ、特に能増の検討を開始。最終提言に向けては各社課題を整理して提言内容の絞り込みを行う。

2. 定置用 LIB 普及強化 WG

(1) 定置用蓄電池の市場拡大・日本製 LIB が優位となる補助金要件の強化策提言

・新規の補助金要件が追加となり、要件を満たすと補助金増額になり、国産メーカーに優位に働く成果が得られた。

(2) 日本製 LIB 優位性の定量的評価に向けた活動

・NITE と耐熱焼性試験、低温充電特性試験実施を検討、7 月に共同実験を実施するための計画を策定中。

3. 法規 WG

(1) LIB 電解液総量規制適正化

・「リチウムイオン蓄電池に係る危険物規制に関する検討会」の報告書が発行された。保管に関して選択肢が増えた効果があった。倉庫業法、交通法などの法令にも注視していきたいと考えている。また、モノづくり工程への残課題の整理も進めていく。

・消防庁が全国の消防署に認識合わせの為の説明会を実施予定。電池工業会へのサポート要請があれば、WG 内で対応方法を検討の上、協力していく予定である。

◆PL 委員会

(1) 消費者庁の事故情報収集

・モバイルバッテリー：昨年度 113 件で、今年度も同じペースで発生。

・スマートフォン：年間 20～30 件で推移。

- ・ノートパソコン：減少傾向。
 - ・電動アシスト自転車：年間 20～30 件で例年通り。
 - ・充電式電気掃除機：年間 20 件近くで推移。
 - ・ポータブル電源：年 40%の市場成長、年間 30 件発生。
- 経産省が公表した安全性要求事項の報告があり、今後の動向に注視する。

(2)その他

・「民生用小型二次電池および産業用リチウム二次電池の安全確保のための表示ガイドライン」第 7 版の最終合意を得て、今月冊子発行予定。

・キャンピングカーでの LIB 使用における安全啓発については、関係先へ方針や意向について再確認中。

◆再資源化委員会

・一般者が電池を廃棄する際の注意事項の周知方法を検討しており、BAJ HP にある購入・廃棄に対しての一般者への注意喚起を BAJ HP 閲覧時に目につきやすい方策の検討。

・一般消費者向け法人、団体および機関に対し、廃電池回収に関する状況、課題および消費者啓発の趣旨を説明し、協力を求めるか検討。

◆広報総合委員会

(1) PR 活動

- ・交通広告、Instagram でコイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止を啓発。
- ・情報誌、新聞、専門誌に広告を掲載して、自動車用バッテリーの定期点検・買替促進。
- ・月刊誌、SNS で小型充電式電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起。

(2) キャンペーン

・「電池は正しく使いましょう！」キャンペーンとして、7 月 3 週間に渡り毎日新聞に啓発記事を掲載。テーマは、①コイン形・ボタン形電池の誤飲防止②自動車バッテリーの点検・買替③小型充電式電池の回収・リサイクル、廃棄。

(3) イベント活動

・でんちフェスタを 8 月 31 日、福岡市科学館で開催。コンテンツは準備中。

・手づくり乾電池教室・エネルギー体験教室の募集を実施。手づくり乾電池教室 15 件、エネルギー体験教室 1

件の申込があり、2 次募集を行う予定。

(4) 情報発信

・機関紙「でんち」：毎月発行

・We LOVE DENCHI：内容更新し増刷準備中。6 月末完成予定

◆国際環境規制総合委員会

1.2 環境関連国際会議への参加

・TWG+（日欧米電池専門家会議）が 4 月 24 日開催。会議の目的は各地域の環境規制最新状況、重点課題を共有。次回開催は 2025 年秋頃、ALPiBa がホストで、メキシコ又はコロンビアで実施予定。

1.3「世界の電池環境規制の状況」第 13 版書籍版の最終確認と発行

・印刷会社から 6 月 6 日発送予定。

1.4 地域別環境情報

(1) 欧州

・EU 電池規則：カーボンフットプリント計算手法(EV 用電池)と宣言フォーマット(対象電池共通)の意見公募開始。

(2) 北米

・米加州 PFAS 含有製品禁止法案、禁止日を「2030 年」から「2032 年」に修正。

・米メイン州 PFAS 汚染防止法の改正法が成立、通知義務は「現在避けられない用途」製品に限定。

(3) 中南米

・チリ環境省、リサイクル法で義務付けられている要件につき一般指示書を公布。

(4) アジア

・インド、電池規則を一部改正-EPR 証書の価格上限と下限の設定、回収・リサイクル義務の繰り越し規定の改正。

2.1 国際会議

・9 月スイス・バーゼルで開催される ICBR(国際電池リサイクル会議)に参加。目的は海外電池リサイクル状況の定点観測と現地リサイクラー視察。

4. JBRC 報告

I. 会員状況

5 月 16 日現在：379 法人(前回から 5 法人減) 下

限会費の値上げ(1万円から5万円)が一因

Ⅱ. 回収状況 (2023 年度累計)

回収量：1736.7 t (前年比 102%)。下げ止まり感あり。

非常灯、誘導灯のニッケル水素が増加。

正極系電池回収量はモバイルバッテリーの増加で Co 系構成比率が増加。

Ⅲ. 具体的施策実施内容

1) 安全とコンプライアンスの徹底

・不安全な電池の混入排出者に改善指導(年間：44 件、前年度比 3 件減少)。絶縁不良、梱包不良はチラシなどの啓発活動で減少、一方、アシスト自転車用ラミネートタイプ電池が膨張して破損した件数が増加。

・すみとも商店、ロワ・ジャパンのダイソン向けコードレス掃除機用非純正電池混入(年間：74 台、累計：635 台)、混入量は減少しているので、調査は 2023 年度で終了。

・フリーライダー対策として、取扱説明書に不適切記載のあった事業者には是正要請。

・リサイクラー会議で、コンプライアンス徹底を依頼。

2) 再資源化活動の深耕と強化

・充電式電池の捨て方を SNS を通じて発信。

・クイズキャンペーン、出前授業、展示会を計画通り実施。

3) 持続可能な経営体制づくり

・2024 年 4 月より有償回収開始(1,540 円/缶)、今後の状況を注視していく。

・2026 年度導入予定の新回収・会員管理システムの開発に着手。(理事会承認済み)

・ISO14001 の維持審査完了。

4) その他参考情報

・環境省『「防ごう！火災！」リチウム蓄電池等に起因する発火事故防止のためのデザイン イラストコンクール (LiB コ

ン！)』表彰式に参加。

・環境省『第 2 回リチウム蓄電池等処理困難物の対策に係る検討会』開催。

・「NEDO 懸賞金活用型プログラム『NEDO Challenge, Li-ion Battery 2025/発火を防ぎ、都市鉱山を目指せ！』公募開始。

・参議院「環境委員会」で竹谷とし子議員が電池回収について質疑された。JBRC に不利になる内容はない。You Tube で閲覧可能。

Ⅳ. 2024 年度事業方針

・「日本の循環型社会形成に貢献していく」方針を掲げ、再資源化活動の深耕と強化、安全とコンプライアンスの徹底、持続可能な経営体制づくりに引き続き取り組む。

・2024 年度のリサイクルガイドスを HP に掲載。

Ⅴ. 2024 年 4 月回収実績

・回収量 169.4 t (前年比 101%)

5. その他審議事項

1) BAJ HP(リチウムイオン二次電池の再利用について)の改訂検討開始 ⇒ 承認

・IEC63338(二次電池用リユース一般ガイドス規格)の IS が 8 月に発行される予定で、BAJ の HP に掲載されている内容が 2014 年 2 月から更新されていないことから改訂検討開始を審議頂きたい。

6. 事務局報告

1) 2024 年度二次電池第 2 部会開催日程

・9/13(金)ハイブリッド会議、12/6(金)ハイブリッド会議、2/7(金)ハイブリッド会議

以上

2024 年 5 月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議他	16日(木)	国際環境規制総合委員会	地域別アップデート、国際会議参加報告等
	17日(金)	広報総合委員会	交通広告、SNSでの啓発について等
	22日(水)	蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備 資格登録の審査、型式認定の審査
	28日(火)	新種電池研究会	新種電池に関する情報交換等
二次電池部会	10日(金)	自動車鉛分科会	SBA G 0101 始動用鉛蓄電池の安全・取扱い指針 改正審議
	10日(金)	電気車鉛分科会	SBA S 0803 電気車用バッテリープラグ 改正審議等
	14日(火)	据置鉛分科会	JIS F 8101 船用鉛蓄電池 改正審議
	14日(火)	PL委員会	「蓄電池の安全確保のための表示ガイドライン」の進め方審議等
	14日(火)	自動車技術サービス分科会	TS-004改訂作業完了。本年改訂予定のリーフレット内容検討(TS-008,012)
	17日(金)	技術委員空き	SBA S 0802 小型電動車用鉛蓄電池 改正案審議
	20日(月)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域234号変更申請および新規広域認定取得打ち合わせ
	23日(木)	IEC TC21/WG2 京都会議	IEC 60095-8 補機用鉛蓄電池 委員会原案審議
	24日(金)	同上	同上
	24日(金)	用語分科会	SBA S 0803 様式審査 等
	31日(金)	充電器分科会	JIS C 4402 浮動充電用サイリスタ整流装置の改正審議等
二次電池第2部会	9日(木)	LIB安全性技術WG	内部短絡試験に関する技術検討
	14日(火)	PSE WG	技術基準解釈改正等の対応についての整理
	15日(水)	リチウム二次分科会	SBA S 0405「二次電池用語」改正修正審議、ISO/TC333コメント募集
	16日(木)	産業用ニッケル水素分科会	IEC規格検討
	16日(木)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	17日(金)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	20日(月)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	20日(月)	リユース規格分科会-リユース・リサイクルTF合同会議	リユース規格に関する審議
	21日(火)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	22日(水)	普及促進委員会	蓄電池の普及促進に関する提言検討
	22日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	24日(金)	国際電池規格委員会	IEC規格 ANSI規格等の審議対応
	24日(金)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	24日(金)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報集計
	24日(金)	蓄電システムWG	公共建築工事・改修工事標準仕様書／設備工事標準図改訂検討
	28日(火)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応
	29日(水)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応
	30日(木)	ニカドニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議
	31日(金)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
一次電池部会	10日(金)	コイン形リチウム二次分科会	IEC61960-4 Ed2審議
	13日(月)	規格委員会	IEC60086-1,-2-1,-2-2、86-5、IEC62281審議
	14日(火)	規格委員会	IEC60086-4、MT17、IEC60086-2-1審議
	15日(水)	器具委員会	BAJ規格「SBA S 1601 携帯電灯」の改正審議
	17日(金)	資材委員会	原材料の需給・価格動向の分析
	17日(金)	ボタン電池回収推進委員会	昨年度の実績報告等
	24日(金)	消費者委員会	災害発生時の支援物資 供給対応

3 月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2024年 3月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」 「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	304,348	146,840	81%	102%	865,971	391,600	87%	104%
一次電池計	203,818	8,956	97%	107%	577,356	25,723	102%	108%
酸化銀電池	50,731	1,506	86%	100%	147,972	4,662	90%	115%
アルカリ乾電池計	78,391	3,155	87%	94%	244,086	9,757	98%	97%
単 三	—	—	—	—	—	—	—	—
単 四	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウム電池	74,696	4,295	122%	123%	185,298	11,304	122%	117%
二次電池計	100,530	137,884	61%	102%	288,615	365,877	67%	104%
鉛電池計	2,679	22,130	95%	105%	7,498	60,886	95%	105%
自動車用	2,109	14,057	96%	106%	5,823	38,666	95%	103%
その他の鉛蓄電池	570	8,073	89%	103%	1,675	22,220	94%	108%
アルカリ蓄電池計	27,754	31,100	74%	113%	84,081	85,083	85%	120%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
その他のアルカリ蓄電池	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン蓄電池計	70,097	84,654	57%	97%	197,036	219,908	61%	98%
車載用	48,649	69,112	48%	91%	138,708	181,013	52%	92%
その他	21,448	15,542	100%	142%	58,328	38,895	107%	137%

3 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2024年 3月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
			前年比	前年比			前年比	前年比
全電池合計（輸 出）	174,310	68,770	77%	107%	437,805	174,986	76%	103%
一次電池計	103,993	3,964	94%	111%	250,124	9,579	90%	106%
マンガン	7	0	—	—	22	1	—	—
アルカリ	11,057	239	87%	95%	22,512	507	54%	64%
酸化銀	48,216	1,386	91%	118%	133,744	3,865	97%	123%
リチウム	44,713	2,330	101%	111%	93,846	5,199	95%	104%
空気亜鉛	0	0	—	—	0	0	—	—
その他の一次	0	7	940%	23%	0	7	294%	8%
二次電池計	70,317	64,806	60%	106%	187,681	165,407	63%	103%
鉛蓄電池	152	1,371	125%	123%	391	3,561	117%	126%
ニカド	69	26	95%	50%	407	132	41%	44%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	8,590	14,174	88%	125%	28,980	39,135	129%	132%
リチウムイオン	49,258	43,145	49%	104%	128,718	107,297	49%	98%
その他の二次	12,247	6,090	239%	89%	29,185	15,282	261%	80%
全電池合計（輸 入）	99,257	46,681	74%	106%	334,855	137,238	90%	115%
一次電池計	92,474	2,218	73%	92%	313,136	6,947	90%	100%
マンガン	5,802	88	65%	55%	23,701	380	82%	73%
アルカリボタン	1,914	19	52%	50%	8,081	80	86%	97%
アルカリその他	74,419	1,222	77%	83%	242,533	4,046	92%	102%
酸化銀	162	10	108%	148%	551	30	120%	158%
リチウム	9,751	530	75%	86%	31,098	1,670	109%	94%
空気亜鉛	427	43	9%	33%	7,156	200	51%	53%
その他の一次	0	306	123%	5841%	15	541	223%	247%
二次電池計	6,783	44,463	89%	107%	21,719	130,291	91%	116%
鉛蓄電池	772	4,931	90%	100%	2,380	14,157	94%	100%
ニカド	121	165	676%	68%	207	586	145%	100%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	1,723	417	98%	85%	4,938	1,102	91%	91%
リチウムイオン	4,162	31,102	85%	103%	14,169	92,659	91%	112%
その他の二次	4	7,848	6%	141%	26	21,788	20%	153%